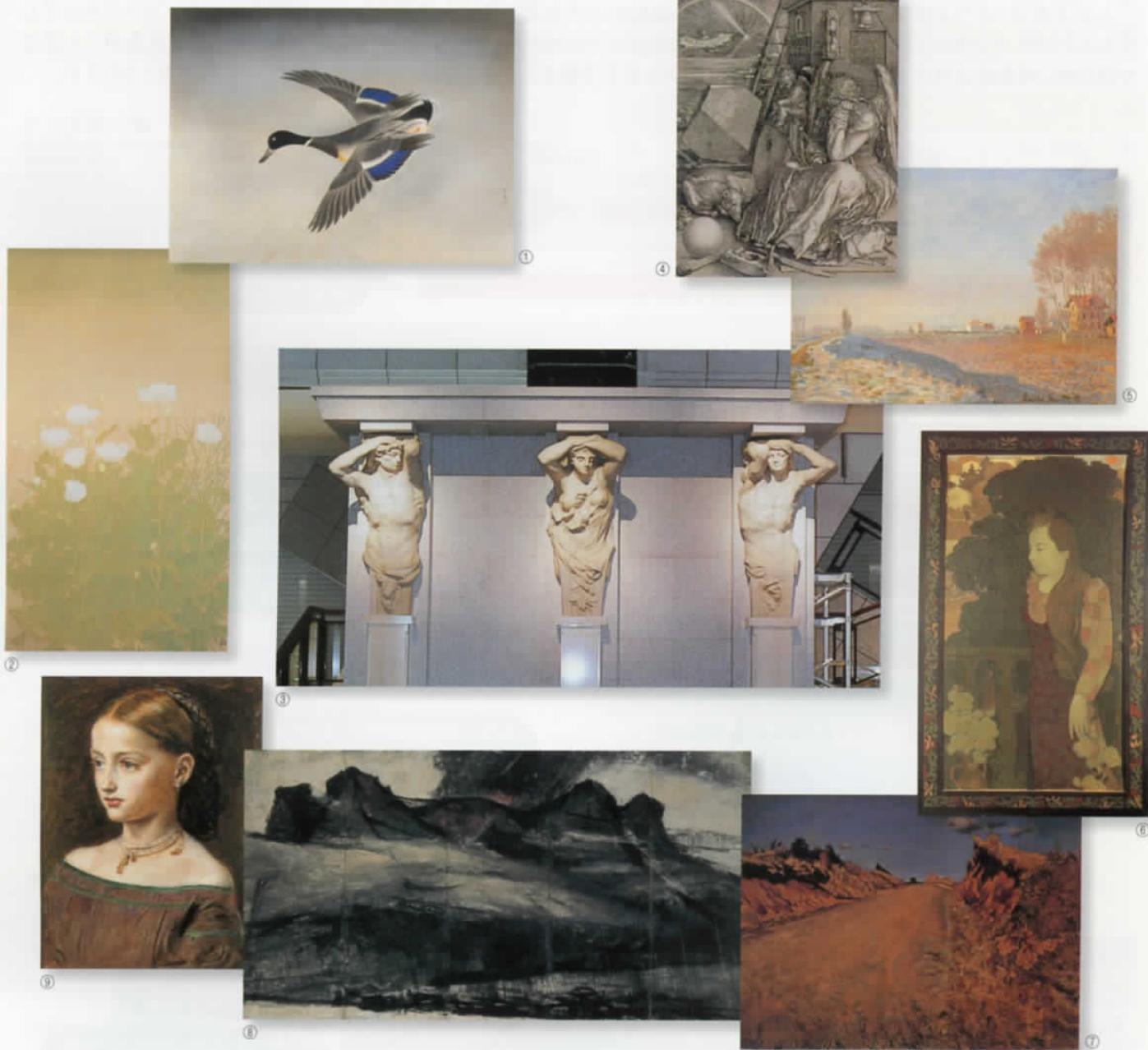


15周年記念号

# 雪椿通信



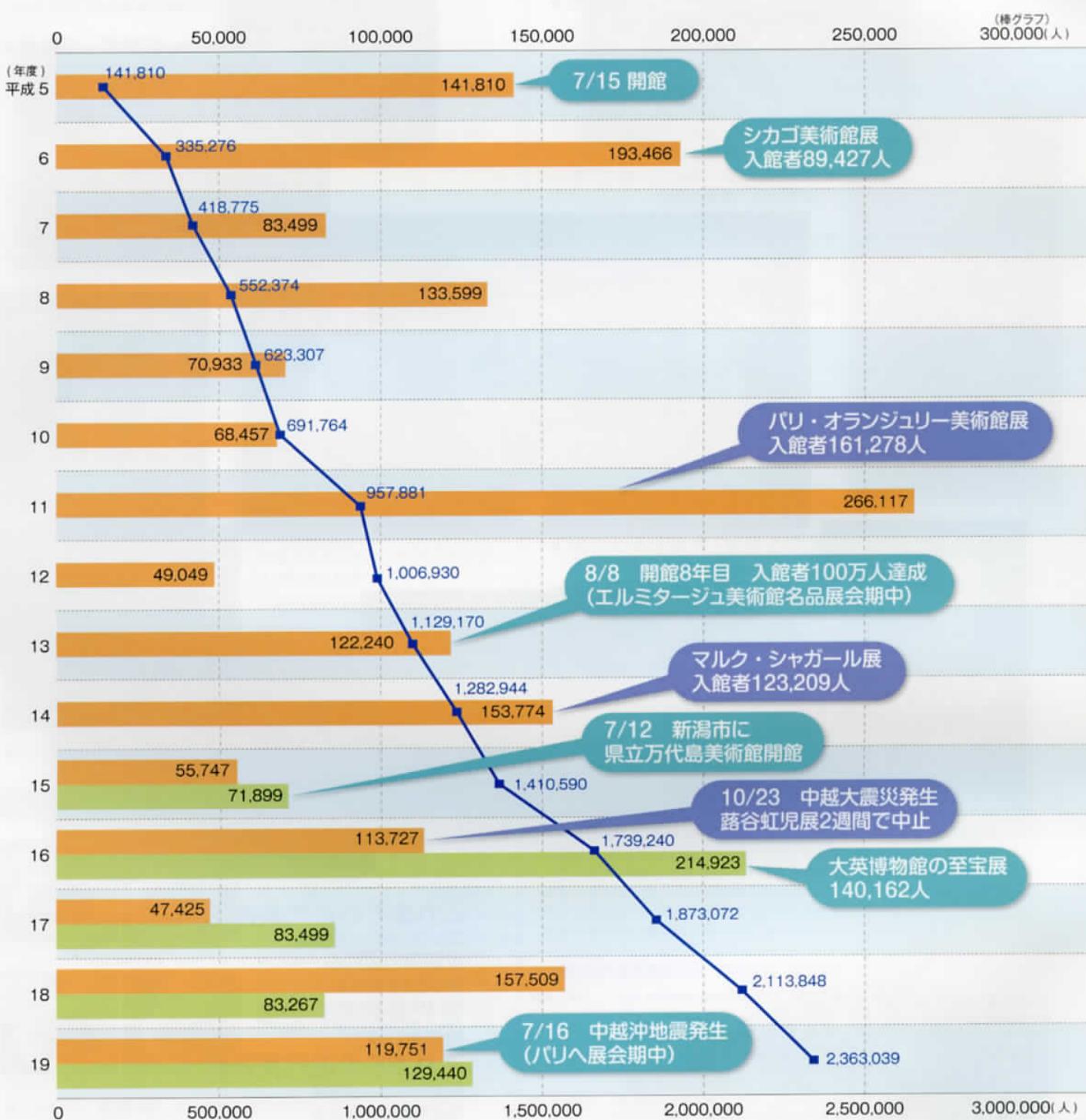
- ①小林古径《飛鶴》1930年  
 ②土田麦僊《芥子》1926年  
 ③オーギュスト・ロダン《カリアティードヒアトラン》1876年頃  
 ④アルフレッド・デューラー《メランコリアI》1514年  
 ⑤クロード・モネ《コロンブの平原、霜》1873年  
 ⑥モーリス・ドニ《夕映えの中のマルト》1892年  
 ⑦岸田劉生《冬枯れの道路》1916年  
 ⑧横山操《炎々桜島》1956年  
 ⑨ジョン・エヴァレット・ミレイ《アリス・グレイの肖像》1859年

- 2-3 これまでの近代美術館 データによる15年のあゆみ  
 コレクションの形成  
 企画展のあゆみ  
 多彩な美術館事業  
 10-12 近代美術館のいま  
 館長あいさつ  
 13 これから近代美術館  
 平成20年度の企画展  
 14 平成20年度の常設展  
 15 イベント情報  
 16

## 県人口240万人を超える入館者数

平成5年7月15日に開館した新潟県立近代美術館も、今年(平成20年)で15年となりました。開館以来、大型企画展をはじめ、さまざまな展覧会を開催してきましたが、その間に入館者100万人の達成や分館である県立万代島美術館の開館、そして、平成16年の中越地震、平成19年の中越沖地震と悲喜こもごもの出来事がありました。

入館者数は、グラフ等で示しましたが、平成15年開館の万代島美術館の入館者も含めた累計の折れ線グラフの傾きでも分かるとおり、その勢いは衰えていません。(平成19年度末で2,363,039人)さらに、今回のデータでは表しきれなかった講堂や講座室、共催展以外のギャラリーの利用者数及び未就学者数を入れると県人口240万人を超える入館者数となります。



\*入館者数(棒グラフ)…常設展・企画展・県展ジュニア展等共催展・巡回ミュージアム 等  
 ■近代美術館 ■万代島美術館

(折れ線グラフ・近代美術館と万代島美術館との合計入場者数)

▶一日の入館者数ベスト3 (近代美術館)

順位	展覧会名	人数	年月日
1	パリ・オランジュリー美術館展	8,536	H11.8.29(日)
2	パリ・オランジュリー美術館展	8,493	H11.9. 5(日)
3	パリ・オランジュリー美術館展	8,056	H11.9.12(日)

▶企画展一覧 (近代美術館)

年度	展覧会名
平成5	大光コレクション展 「野間コレクションとその時代」展 ベルギー現代美術展、佐々木象堂とモダニズム
平成6	シカゴ美術館展、カール・ラーション展 山種美術館展、佐藤哲三展
平成7	ヨーロッパ工芸新世紀展、子どものための美術展'95 金鈴社の五人展、表現主義彫刻
平成8	ボテロ展、エルミタージュ美術館特別名品展 江口草玄、横山操・加山又造展
平成9	国立西洋美術館展、アムステルダム市立美術館コレクション展 近代日本画への模索と展開、中村彝展、マナブ間部展
平成10	工芸のジャポニスム展、子どものための美術展'98 インサイド／アウトサイド 東京国立近代美術館・京都国立近代美術館所蔵品 デザイナー亀倉雄策展
平成11	絵本と絵巻、パリ・オランジュリー美術館展 唐皇帝からの贈り物展、横山操展 群馬県立近代美術館コレクション展
平成12	広川松五郎・高村豊周展、麻田鷹司展 ナビ派と日本、写真の世紀展 長谷川潔・駒井哲郎の版画
平成13	ココロの形・カタチの心、エルミタージュ美術館名品展 大矢紀・三輪晃久・山崎隆夫展 齋藤三郎と新潟の工芸、有元利夫展
平成14	長岡現代美術賞回顧展、マルク・シャガール展 小山正太郎と「書ハ美術ナラス」の時代 福島県立美術館コレクション展
平成15	三代藍堂・宮田宏平展、モーリス・ドニ展 大倉集古館名品展、県民の美の財産
平成16	黒田清輝展、ルーヴル美術館展 落谷虹児展、県民の美の財産Ⅱ
平成17	県民の美の財産Ⅲ、良寛遺墨展 ケーテ・コルヴィッツ展、昭和の美術 亀倉雄策のデザイン
平成18	県民の財産Ⅳ、ウイーン美術アカデミー名品展 新潟の仏像展、ディズニー・アート展 東山魁夷と信州の美術展
平成19	変わりゆく日本画展、パリへ 洋画家たちの百年の夢 藤城清治 光と影のファンタジー 「日本のわざと美」展、石川県立美術館所蔵名品展
平成20	新潟の写真家たち、魅せます!コレクション、マティス・国宝他

▶入館者ベスト10 (近代美術館)

順位	展覧会名	人数	年度
1	パリ・オランジュリー美術館展	161,278	11
2	マルク・シャガール展	123,209	14
3	シカゴ美術館展	89,427	6
4	ルーヴル美術館展	88,838	16
5	エルミタージュ美術館名品展	82,877	13
6	エルミタージュ美術館特別名品展	81,190	8
7	大光コレクション展	66,850	5
8	藤城清治 光と影のファンタジー	63,146	19
9	唐皇帝からの贈り物展	60,468	11
10	ディズニー・アート展	52,216	18

▶入館者ベスト10 (近代美術館+万代島美術館)

順位	展覧会名	人数	年度	美術館
1	パリ・オランジュリー美術館展	161,278	11	近美
2	大英博物館の至宝展	140,162	16	万美
3	マルク・シャガール展	123,209	14	近美
4	シカゴ美術館展	89,427	6	近美
5	ルーヴル美術館展	88,838	16	近美
6	エルミタージュ美術館名品展	82,877	13	近美
7	エルミタージュ美術館特別名品展	81,190	8	近美
8	始皇帝と彩色兵馬俑展	67,830	9	万美
9	大光コレクション展	66,850	5	近美
10	藤城清治 光と影のファンタジー	63,146	19	近美

▶入館者一日平均ベスト10 (近代美術館)

順位	展覧会名	人数	年度
1	パリ・オランジュリー美術館展	2,829	11
2	シカゴ美術館展	2,236	6
3	マルク・シャガール展	2,088	14
4	ルーヴル美術館展	1,532	16
5	エルミタージュ美術館名品展	1,507	13
6	大光コレクション展	1,453	5
7	藤城清治 光と影のファンタジー	1,373	19
8	エルミタージュ美術館特別名品展	1,212	8
9	唐皇帝からの贈り物展	1,141	11
10	山種美術館展	1,122	6

## コレクションの歴史を振り返る

### はじまり(1967年)

近代美術館の前身は新潟県美術博物館です。新潟地震の復興を記念した新潟県民会館(新潟市)の中にあり、1967(昭和42)年11月に開館しました。当初のコレクションは、まず新潟県民会館より作品を管理換えする形で始まりました。



■横山操《淡々桜島》1956年 [1974(昭和49)年度購入]  
《親不知夜雨》(1970年)に続く、操コレクションの第2作目。

■小林古径《雨》1917年 [1973(昭和48)年度購入]  
古徑に兄事した日本画家奥村士牛の旧蔵作品。「新潟の美術館に(県出身の)古徑の作品がなくては」とお譲りいただきました。

### 進展—近代美術館開館(1993年)を目指して

近代美術館の開設準備が始まると、収集対象も広げられました。新潟ゆかりの作家や、近代日本美術を代表する作家はもちろんのこと、「世界」も視野に認められました。主に日本美術との関連を重視して対象を求めた結果、19世紀のバルビゾン派から収集が始まりました。



■コロー《ビブリ》1874-75年 [1988(昭和63)年度購入]  
コロー最晩年の作品。西洋美術コレクションの始まり。

1967  
昭和42年

1981  
昭和56年



■岸田劉生《冬枯れの道路》1917年  
[大光コレクション／1981(昭和56)年度購入]

■土田麥僊《芥子》1926年  
[1981(昭和56)年度購入]



■小山正太郎《仙台の桜》1881年  
[1987(昭和62)年度購入]

■佐藤哲三《郵便脚夫宮下君》1931年  
[1984(昭和59)年度購入]

### 坂井コレクションの寄贈 (平成3年度)

長岡の医師坂井藤吉氏から73点の作品を寄贈していただきました。



■佐伯祐三《広告塔》1927年  
[大光コレクション／1981(昭和56)年度購入]

■梅原龍三郎《紫禁城》1942年  
[大光コレクション／1981(昭和56)年度購入]

### 飛躍—大光コレクションの購入(1981年)

土田麦僊《芥子》が購入され、麦僊コレクションが充実した1981(昭和56)年には、さらに大きな出来事がありました。「大光コレクション」の収藏です。長岡市の大光相互銀行所有の大コレクションが売却されることになり、新潟県は近代と戦後の洋画に焦点を定め、総計150点(洋画71、日本画16、版画56、その他7)を購入しました。それらは一様に水準が高く、今でも収蔵品の重要な核になっています。収蔵できなかった作品は、国内各地の美術館に散りましたが、近代美術館の開館記念展で里帰りを果たしました。



■ランソン《収穫する7人の女性》1895年  
[1991(平成3)年度購入]



■ドニ《夕映えの中のマルト》  
1892年  
[1993(平成5)年度購入]



■コルヴィツ《母と二人の子》1932-36年  
[1993(平成5)年度購入]  
1988年に鋳造されたもので、作者の孫アルネ・  
コルヴィツ氏が所蔵していました。



■モネ《コロンブの平原、霜》1873年  
[1992(平成4)年度購入]



■ゴヤ《カブリーチョス》  
1788年  
[1993(平成5)年度購入]



■ロダン《考える人》1880年  
[1998(平成10)年度購入]



■デューラー《メレンコリアI》1514年  
[1999(平成11)年度購入]



■ヴュイヤール《風景と室内》1896-99年  
[2003(平成15)年度購入]

野外彫刻の設置  
[1995(平成7)年度、1997(平成9)年度]

近代美術館開館  
**1993**  
平成5年



■中村翫《洲崎義郎氏の肖像》1919年  
[1994(平成6)年度購入]

拡大一万代島美術館の  
開館に向けて(2003年以前)

第2の県立美術館を新潟市に  
設立することになり、現代の美  
術にも眼を向けて積極的な取  
集活動が行われました。



■竹内楳風《睡牛》1930年  
[1997(平成9)年度購入]

万代島美術館開館  
**2003**  
平成15年

近代美術館15周年  
**2008**  
平成20年

相澤コレクションの寄贈  
[2005(平成17)年度]

岡本太郎《顔》などの寄贈  
[2006(平成18)年度]

横山操の日本画、三浦小平治の工芸などの寄贈  
[2007(平成19)年度]

亀倉雄策コレクションの寄贈  
[1996(平成8)年度]

デザイナー亀倉雄策は、その関心の幅の広さを  
物語るように様々な美術作品を収集して楽しん  
でいました。

■マリーニ《騎手のための構想-習作》1955年  
[亀倉雄策コレクション/1996(平成8)年度亀倉英治氏寄贈]

将来(21世紀)

ここ数年、美術館では作品購入がありませんが、その窮状を補  
うように、遺族や個人收集家の方々から寄贈申し出があります。  
中には、寺泊にあった相澤美術館の収蔵品が一括寄贈されるよ  
うな、大規模なものもありました。また、寄贈でなく、「寄託」と  
して作品を預かり、展示公開させていただく場合もあります。



## 企画展のあゆみ

### 親しみやすい展覧会



開館記念式典  
「ロダン除幕式」

今から15年前、近代美術館が開館する直前の『新潟日報』社説にこんな言葉が書かれていました。

「新美術館が（美術）ファンの期待にこたえるだけでなく、多くの県民に親しまれ、潤いを与え、美と文化をつくり出す拠点になってほしいと思う。物から心へと本物の豊かさが問われる時代もある。新美術館の意義をかみしめ、県民一人ひとりの財産にしていきたい。」

（1993年6月27日『新潟日報』県民の財産にしたい「美の殿堂」）



「大光コレクション展」での  
李禹煥氏による公開制作

オープニングの展覧会は、かつて長岡の名を美術界に高からしめた旧大光コレクションを再構成した「大光コレクション展」です。開幕後わずか10日間で入場者

数が1万人を超え、美術館への関心の高さに安堵とともに、どのような展覧会を県民が求めているのかを示唆される出発点になりました。その後「シカゴ美術館展」では約9万人、「パリ・オランジュリー美術館展」では16万人、「マルク・シャガール展」では12万人の入場者がありました。

長岡市の人口が当時19万人弱だったことを考えると驚異的な数字です。県民



「パリ・オランジュリー美術館展」の会場風景



「マルク・シャガール展」での  
5万人目入場者記念セレモニー

の皆さんにとって、何よりもまず親しみやすい展覧会が美と出会いきっかけとなっていましたことが分かります。

### 特色のある自主企画

当館では、先鋭的な研究に基づいた企画展を幅広く開催してきました。大正期の美術に新たな光を当てた「金鈴社の五人」展（1995）や「中村彝展」（1997）、現代彫刻を取り上げた「インサイド／アウトサイド」展（1998）など。「ナビ派と日本」展（2000）と「昭和の美術」展（2005）では、美連協図録奨励賞を受賞しています。前者は、担当した佐々木学芸員が倫雅賞も受賞する快挙となりました。



「横山操・加山又造」展開場式で挨拶する加山又造氏



「金鈴社の五人」展開場式での作品説明会



「インサイド／アウトサイド」展  
でのエントランスホール展示



「ナビ派と日本」展、「昭和の美術」展の図録表紙



「デザイナー龜倉雄策展」の会期中に幸運にも実現したクリスト&ジャンヌ・クロード講演会

過去の文化財だけでなく、県の美術の現在を伝える企画も行っています。県民会館ギャラリー（新潟市）で年一度開催していた「シリーズ新潟の美術」は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書の各分野から県内在住の作家たちを紹介する企画でした。2003年に万代島美術館が開館して以降は、「新潟の100人」として装いも新たに再出発しました。



新潟県民会館で開催していた「シリーズ新潟の美術」(1996)

## 海外美術館との独自交流による展覧会

県立近代美術館が開館以来掲げてきた目標の一つに「世界の名だたる芸術を新潟の地で紹介する」ということがあります。海外の美術館展の独自開催は、幾度もの出品交渉や作品調査を経て、3年から長くて5~6年の歳月をかけて漸く実現できるものです。過去15年間に、「エルミタージュ美術館」展(1996, 2001)、「唐皇帝からの贈り物」展(1999)、「ルーヴル美術館」展(2004)などが開催されました。これらの展覧会を通して、首都圏な

どで開かれる海外展に出かけなくとも、新潟で世界の名品に触れられることは勿論ですが、さらに歴史のある海外の美術館と新潟との間に文化的な

交流が生まれるという目に見えない財産を築くことも可能となります。エルミタージュ美術館展を二度開催することができたのも、双方向的な交流の成果の一つといえるでしょう。



エルミタージュ美術館展の準備もたけなわ。学芸員による作品点検

## 新傾向の企画展

近年、これまでになかった傾向の展覧会を開催する機会が増えています。40年ぶりに日本で再発見されたディズニーアニメの貴重な原画が開催のきっかけとなった「ディズニー・アート」展(2007)では、ミッキーやピノキオの細密なセル画を熱心に見つめる数多くの親子連れの姿がありました。影絵を幻想的に演出した「藤城清治展」では当方の予想を超える幅広い年齢層のお客様が来場されました。近代美術館では、開館以来「子どものための展覧会」と位置付けた展覧会を幾度か行い、学校との連携を深めてきましたが、今後は美術の枠にとらわれない、より一層柔軟な発想による企画展も必要であることが実感されます。こうした傾向が、未来の美術館に向けての重要な事業の一つとなっていくことでしょう。



紀宮様がご来場になった「子どものための展覧会」(1998)



「ディズニー・アート」展

## 多彩な美術館事業

美術館では、みなさんに美術を楽しんでいただくために、たくさんのイベントや多彩な事業を企画実施してきました。

### オープニングセレモニー…企画展の華

平成17年度の「ケーテ・コルヴィッツ展」では、次代を担う子どもたちを主役に、オープニングセレモニーを行い、熱い拍手喝采を浴びました。



### 講演会…著名な講師を招いて

企画展に合わせて、専門的な話や知られざるエピソードを交え講演会を幾度となく開催してきました。写真はエルミタージュ美術館館長による講演会。



### 異分野とのコラボレーション…共演・競演

平成17年に行われた「ケーテ・コルヴィッツ展」では、映像を交えた初めての朗読会を行い、平成19年の「パリへー洋画家たち百年の夢」では、パリに関連した詩とシャンソンをテーマに朗読とアコーディオンの共演が行われました。そして、平成20年の「マティスとルオー」では、伝統芸能「紙切り」とジャズの異色・画期的な初対面はじめ、「マティスの愛した音色」シャコンヌ、ヴァイオリンコンサートを実施します。

### コンサート…いやしの空間、充実のひととき

企画展に関連し、ギャラリーやエントランスホールで音楽のコンサートを行ってきました。



平成18年の「ウイーン美術アカデミー名品展」では、弦楽四重奏がエンタランスホールに響き渡り、満場の聴衆を魅了しました。



### 託児サービス…先駆的事業展開

平成14年に行われたシャガール展では、県内他館に先がけ、初めて「託児ルームBeBe」が設置され、小さなお子さん連れの方々に喜ばれました。



## 被災者を励ますために…苦しい時こそ、明るい話題を

平成16年10月23日に、中越大震災が発生。被災地域の子どもたちを励ますために、子どもたちの作品応募による「いきいき中越っ子展」を開催しました。応募点数が多く、県内の大学・一般からのボランティアも募り、3期に分けて行い、多くの感謝の声が寄せられました。右は、会期中設けられたワークショップ「生命の木」の製作風景です。



多くのボランティアの手で実現しました。

## ワークショップ…参加し、活動するための美術館へ

美術館は、作品鑑賞のだけの場ではありません。鑑賞の驚きや感動を共有し、美への誘いを追体験し、美を通して新たな出会いが始まり、新たな価値を見出し、生み出す創造の空間です。集い、話し合い、つくり、動き、熱中し、学び合い…、様々なワークショップを実施してきました。

平成20年度は、昨年の3倍近くの16回のワークショップを実施予定しています。



## 紙芝居…フトワークを生かして

美術館は、時には外にもとび出します。巡回展、美術鑑賞講座はじめ、紙芝居も出前してきました。



## 作品解説会・鑑賞会

展示作品への理解を深めるために、学芸員による作品解説会やギャラリートークはじめ、一般公募の参加者による「おしゃべりギャラリー」等、多彩に行ってきました。平成19年度から、解説会は毎週土曜日・日曜日に開催中です。



写真は平成16年に行われた「きもので楽し落谷虹児」です。

# 外部評価とさまざまな取組

## 二つの地震と危機管理

平成16年10月23日の「新潟県中越大震災」。当館は大きな被害を受けなかったものの、収蔵庫内でラックに掛けていた作品のヒートンが抜けるなどの被害がありました。地震後緊急対策を実施、ねじタイプのものは「ファームヒートン」に替え、作品をかけるフックは、すべてはずれ止めのバネが付いたものに変更しました。また、日本画や書の軸装作品を展示する際にも、作品が揺れないようテグスで固定するよう改めています。これらが功を奏して、昨年7月16日の「中越沖地震」では新たな被害が発生することはありませんでした。しかし中越大震災との違いは、来館者のいる開館時間中に発生したことです。当館では「地震時の入館者対応」の指針をまとめ、より地震に強い美術館をめざしています。



展示用フック(左)および収蔵庫用フック(右)

## 金曜延長、月曜開館の努力

「美術館は月曜休館」というのが一般的ですが、当館では隣県の県立美術館に先がけて、平成18年度から月1回の月曜開館日を設けました。また、通常午後5時に閉館するところを、金曜のみ6時半まで延長開館しています（冬期を除く）。

月曜にしか余暇が取れず、なかなか美術館に足を運ぶことができないという職種があります。月曜開館はこういう方たちに朗報となるでしょう。また、平成19年には美術館付近に大型のショッピングセンターや映画館ができ、夜まで賑わいを見せるようになりました。買い物帰りに立ち寄ろうと思っても美術館が閉まっていたらガッカリです。

多様なニーズに応えるために、美術館ではこうした試み

を始めましたが、延長時間や月曜開館日の利用者はまだまだ少ないというのが実情です。もっと広く浸透させる工夫が必要だと思っています。

## 「外部評価」の導入

公共施設の運営についての見直しが進むなか、美術館にも地域の魅力を高め、県民に親しまれることが求められています。美術館活動の評価方法を検討するために、平成18年4月、県教育委員会によって「新潟県立美術館外部評価検討委員会」が設置されました。2年間に計6回の審議がなされ、平成20年度から「外部評価制度」を取り入れることとなりました。県立近代美術館と万代島美術館が今後担っていく「社会的使命」を設定し、その実現のための経営改革が求められています。

## 案内表示の増設

開館15周年を迎えるにあたり、館内外の看板類を模様替えしました。

平成18年度にはハイブ長岡やショッピングセンター側から見える位置にも開催中の企画展の看板を増設し、さらに今年度、ミュージアムショップとレストランの表示も新たに設置しました。入口の鉄扉には、開催中の展覧会名を大きく掲示し、エントランスホールの柱の館内地図も分かりやすいものに改めました。ミュージアムショップ背面の窓ガラスには、爽やかな色の文字でお店の名前を入れました。



増設した看板類

## アンケートの声に応える

当館では館内にアンケート用紙を設置、日ごとに寄せられた用紙をファイルに綴じ、全職員に回覧し、情報を共有しています。重要なところにはマーカーや付せんをつけ、実施した改善点を追記したりしています。昨年の「藤城清治 光と影のファンタジー」展では51日の会期中に259枚のアンケートが寄せられました。

「展示室内に休憩用のソファが少ない」という意見があれば、その日の閉館後に職員がソファを運び込んで増設します。アンケートの声に真摯に耳を傾けるうち、来館者の視点が次第に身についてきた、というのが実感です。

## 友の会とボランティア

美術館をより親しみのあるものにするために、美術館では2つの支援組織が活動しています。

一つは、県立の美術館である新潟県立近代美術館と新潟県立万代島美術館の共通の友の会である新潟県立美術館友の会です。現在会員は、約700名。会員の親睦と交流を図る美術館巡りや会員展等の各種事業はじめ、美術館情報の提供等を行っています。

もう一つは、20年度からスタートしたアートボランティアです。こちらは現在17名。「美術館の今にふれる」をテーマにポスター・チラシの地域配布やファイル整理・イベントの補助等の活動を行っています。



作品点検カードを作成するアートボランティア

チラシの地域配布やファイル整理・イベントの補助等の活動を行っています。

## 美術館施設の貸出

美術館は展覧会以外にも様々ななかたちで県民に利用されています。そのひとつが講堂、ギャラリー、講座室の貸

出サービスです（有料）。講堂はおもに「ピアノ発表会」で毎週末のように使用申請があり、昨年度は36団体、総利用者数は約3,800人でした。講座室は控室として利用されることが多いようです。ギャラリーでは個人やグループの展覧会がしばしば開催され、昨年度は12団体が利用し、入場者数は約8,500人にのぼりました。このように当館の施設を利用してくださる方は、広い意味では「美術館利用者」ということになります。平成19年度からは半日だけの利用なら借料を半額にし、使い勝手をよりよくしています。

## 広報への取り組み

大勢の方々にご来館いただくために、「広報活動」に力を入れています。新聞、雑誌をはじめ、テレビやラジオなどの報道機関を活用して発信しています。

ポスターは千単位、チラシは万単位で印刷します。これらを各施設にお願いして、掲示・設置していただいている。高速道路のSAでポスターを見かけることはありませんか。県内外の美術館や博物館、1,000校近くある県内の小中高等学校にも送付します。長岡市内の施設には、職員が回って掲示の依頼をしたり、直接ポスターを貼ったりしています。

その他の広報手段として、新潟駅前TMOビジョン、長岡駅前商店街のフラッグ、タクシーステッカーやバス中貼りポスターなどを利用することもあります。



ポスター掲示は職員が一枚一枚手渡しでお願いすることもあります

## ホームページも充実

当館ホームページの閲覧者数が40万を超えるました。イベント情報を見て、ワークショップや美術鑑賞講座に参加してくださる方もいます。

講堂やギャラリーでの催事情報も載せるようにしました。15周年記念の「魅せます！コレクション、ベスト1」のイベントでは、当館所蔵作品からお客様のお気に入りの1点をアンケートし、集計結果ベスト5とコメントをくださった方々の思いを紹介しました。今後も、皆様の声をできるだけ反映させていきます。さらに見やすい、分かりやすいホームページにしていきたいと思っています。近々予定しているリニューアルにもご期待ください。

## 「引く手あまた」のコレクション

美術館では全国の館と美術作品の貸し借りを行なっています。もちろん、貴重な文化遺産を運搬するわけですから、学芸員が入念な作品点検を行なう上で貸し出し、返却後もあらたなキズがないか点検します。

昨年度は全国の24の展覧会に76点の作品が貸し出されました。これらは、県民の共有財産である美術コレクションが、各方面から高く評価されている証です。佐伯祐三

### ●作品貸出の記録

年 度	国 内	国 外
5	166	1
6	198	0
7	71	0
8	178	0
9	204	0
10	112	0
11	119	2
12	265	2
13	323	0
14	285	0
15	80	0
16	197	0
17	139	2
18	452	1
19	72	4
小 計	2,861	12
合 計	2,873	

15年間で総計2873点の作品が他館の展覧会に出品されています。  
そのうち、12点は国外の美術館に貸し出されています。



『広告塔』が掲載された  
フランスの情報誌

『広告塔』他3点はパリ日本文化会館の「パリに学んだ日本の洋画家」展でも展示されました。『広告塔』はフランスの情報誌にカラー掲載され、注目を集めました。

## 一番人気の作品は？

今春開催された「魅せます！コレクション」展では、開館15周年を記念して当館コレクションの代表作を紹介しましたが、入場者に投票用紙を配布し、展示作品の中から一番好きな作品を選んでもらいました。堂々トップに輝いた横山操《炎々桜島》は当館の顔ともいえる作品です。新潟を代表する画家として、地元での横山操の人気は根強いものがあります。一方、最終日まで同点でありながら僅差で2位となった木下晋《101年の胎動》は、2005年に開催したイベント「所蔵品チャンピオン」では1位となっており、その魅力の普遍性を物語っています。

順位	作 家 名	作 品 名
1	横山 操	炎々桜島
2	木下 晋	101年の胎動
3	東山魁夷	森の静寂
4	ジョン・エヴァレット・ミレイ	アリスト・グレイの肖像
5	三輪晃久	明けゆく
6	ケーテ・コルヴィッツ	母と子
7	加山又造	月と駱駝
8	山崎隆夫	砂丘晩夏
9	藤田嗣治	私の夢
10	佐藤哲三	郵便脚夫宮下君

本年4月に、館長に就任しました徳永健一です。前二代の館長と異なり美術のプロではなく、昨年3月までは新聞社の事業局長、現在は系列の社長を勤めています。

兼務での就任要請があり、逡巡し悩みましたが、民間の経営感覚・手法、新聞社の文化事業の実績を、美術館の運営に活かせるならば、と考え決断しました。

いまの日本社会に欠けているのは感性です。殺伐と

した最近の事象も、その欠落から起こっているように思われます。感性を磨く一番の方法は、美術館で良い美術作品を鑑賞することです。

「県立美術館として多目的な機能を充実し、県民に親しんでもらえる美術館を目指す」という設立目的に沿って、皆で考え、行動に繋げていきたいと思っています。



## これからの近代美術館

# 明るく楽しい美術館に向けて

### 15年で236万人の鑑賞者

近代美術館も開館15周年を迎え、分館として新潟市に設置された万代島美術館も5周年を迎えました。この15年の間にはバブルの崩壊、中越地震、中越沖地震など大きな出来事が立て続けにおこりましたが、その中で近代美術館や巡回ミュージアムなどや、展覧会を観ていただいた方々は177万人を超える数字となりました。万代島美術館とあわせると236万人を超す人たちが展覧会を鑑賞したことになります。

県民の美術に対する意識は近年多様化してきており、ただ展示された作品を観て満足するだけではなく、美術館に足を運ぶことによって知的欲求を満たしたり、憩いの場としての存在を求めたり、新たな発見や感動を期待して作品と触れ合い鑑賞する傾向が顕著になっていることがアンケートから伺えます。美術館に「知的欲求の充足」、「心の安らぎ」や、「癒しの空間」としての役割を求めて来館する人は年々増えており、展覧会として中央で開催しているような大型企画展も要望されています。

### 社会的使命達成のための経営改革

近代美術館はこれまでに、「県民に愛され親しまれる、開かれた美術館」を目指して、様々な展覧会や普及活動を行ってきました。これからも「新潟県立近代美術館」としての社会的使命である「広く新潟県民と新潟を訪れた人のために、新潟県固有の文化の価値を見直し、併せて未

来に継承すべきコレクションの充実と研究、活用、普及を通じて、多様な美術館活動を開発、提供し、創造力溢れる人材の育成に取り組み、地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する。」ための努力を重ね、県民が気兼ねなく美術館を利用することができるよう経営改革をしていきたいと思っています。

そのためにも民間活力を導入し、県民が美術に親しみ楽しむことを享受することが出来、社会と交わりながら創造力を育み視野を広げられる場となるように、地域に密着した美術館として運営していきます。これまで以上に、学芸員の研究成果を取り入れた内容が豊かで質の高い展覧会の開催や、県民へのサービスの充実による満足度が高い事業展開を目標として取り組んでいきます。

### 使命実現のための5つのキーワードと戦略ビジョンの設定

**まなび**：美術館が持つ資源を活用し、広く県民と新潟を訪れた人々に、新たな発見と感動を提供し、創造力を育む

**創造**：地域文化の魅力を社会に発信し、新しい新潟の文化と産業を創造する活動に取り組む

**交流**：地域との連携や来館者とのコミュニケーションの視点に立った取り組みを実践する

**収集・保存**：美術作品の計画的収集・保存・管理・調査・研究を行い、コレクションを次世代に引き継いでいくことを前提として、作品の活用・普及を実践する

**環境**：来館者が安心して利用できるように、展示施設以外の付帯施設の環境整備に努め、美術館の付加価値を高める

これからも両館ではそれぞれの地域性や経営資源の特性を活かしながら、「県民のための美術館」として運営していきたいと考えています。

## 平成20年度の企画展

### 国宝、重要文化財がいっぱい

三十三間堂の近くにあって、「京博」の愛称で広く親しまれている京都国立博物館は、明治30(1897)年に開館し、今年で111年を迎えます。その長い歴史が示すように、東京、奈良の国立博物館と並び、日本における博物館の歴史のはじまりに位置します。

今回の「国宝との出会い」展では、京都国立博物館が長い時間をかけて収集してきた館蔵品と、社寺や個人との篤い信頼関係に基づいて寄託を受けている作品の中から、飛鳥時代に始まり江戸時代にわたる各種分野から作品を選定してご紹介します。国宝7件・重要文化財19件・重要美術品3件を含む、名品55件(約70点)をおおして、日本美術の「粹」を存分に堪能できることと思います。

#### ■国宝との出会い～京都国立博物館収蔵品による～

空海・雪舟・雪村・若冲・牧谿

■2008年9月13日(土)～10月19日(日) 会期中無休  
※会期中、展示替えを行います。[前期9月29日㈪まで／後期9月30日㈫から]



《山越阿弥陀図》  
鎌倉時代(13世紀)  
●国宝



《騎馬武者像》  
南北朝時代(14世紀)  
○重要文化財

### 20世紀美術と日本画の対決！

ピカソやロートレックといったお馴染みの画家から始まって、アメリカのポップ・アートや近頃流行の椅子のデザインまで、20世紀美術の流れがダイジェストに鑑賞できる展覧会が、今秋長岡にやってきます。富山県立近代美術館は、1981年の開館以来「20世紀美術」を一貫して収集し、その充実したコレクションによって国内外で高い評価を受けている美術館です。また、同県には水墨美術館という日本の伝統の中で育まれた美術を系統的に収集しているユニークな美術館が存在しています。本展で西洋の現代美術と東洋の日本画、という対照的な2つのコレクションの個性を存分に味わってみてください。

#### ■西洋の美 東洋の美～ピカソ、ロートレックから東山魁夷まで～

富山県立近代美術館・富山県水墨美術館名品展

■2008年10月25日(土)～12月14日(日) 月曜休館日:10月27日㈪、11月10日㈪、17日㈪



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《マンジの肖像》  
1901年 富山県立近代美術館蔵



東山魁夷《山・海》(左隻) 1940年 富山県水墨美術館蔵

### 能楽のすべてがわかる

わが国の伝統芸能である能楽(能と狂言)は、室町時代初期に世阿弥によって大成されてから600年以上もの歴史を誇り、2001年にはユネスコの「世界無形遺産」として認められました。新潟県と能楽とのかかわりは古く、佐渡は世阿弥の流刑地であり、江戸時代に神事能がさかんとなり、今なお島内各地に能舞台が存在しているほか、県都新潟でも能楽堂や神社で演じられる能楽が人気を集めています。

東京渋谷にある国立能楽堂は能楽の普及と発展、演能者の育成を目的に1983年に設立されました。開場25周年記念事業として開催される本展は、同能楽堂が所蔵する能・狂言面、能・狂言装束、楽器、絵画、文献資料など約120件をまとめて展示する初の機会となります。

#### ■国立能楽堂コレクション展 一能の雅 狂言の妙

■2009年1月24日(土)～3月1日(日) 会期中2月16日㈪のみ休館

※会期中、展示替えを行います。[前期2月15日㈰まで／後期2月17日㈫から]



小面  
江戸時代(17世紀)  
国立能楽堂蔵 ※前期展示



紅地雪持揚羽蝶模様扇  
桃山時代(16世紀)  
岐阜・春日神社蔵 ○重要文化財 ※前期展示

### 居ながらにして東海道の旅～広重とパリの意外な関係

「名所絵師広重」の名を不動のものとした出世作の錦絵揃物『東海道五十三次』。江戸日本橋と京三条大橋の間に設けられた53の宿駅を旅情豊かに取り上げるこの作品は、当時爆発的にヒットしました。《庄野・白雨》をはじめ、全55図が江戸時代の東海道の旅にいざなってくれます。川を渡り、山を登り、名所を見物し、様々な出会いを楽しみながら、広重の素晴らしい心遣いを味わってみませんか。

19世紀後半、欧米ではジャポニズムという日本美術の大流行現象が起きました。本展では、マネやドニの版画作品と広重の錦絵を結び付けて展観し、ジャポニズムの一端をご紹介します。

#### ■東海道五十三次とジャポニズム

■2009年3月7日(土)～3月31日(火) 会期中月曜日休館



歌川広重《東海道五十三次 庄野・白雨》  
1833年頃

## 平成20年度の常設展

### ココが変わった！常設展

当館では開館以来、一年を四期にわけ、展示室1・2・3ごとにテーマを決めて、多彩なコレクションを紹介してきました。そのテーマは平成18年度までに210以上にもなります。

にもかかわらず、当館のアンケートでは、常設展は変わり映えがないという意見が時折寄せられます。実際に展示室に入れば、その変化に気づいていただけるはずですが、「常設展はいつも同じ」というイメージが先行してしまうのは、やはり、常設展示室のぞいてみようと思わせる仕掛けが不足していたからなのかもしれません。

#### ●統一テーマによる展示

そこで、平成19年度からは常設展のあり方を一新しました。部屋ごとではなく、全体をひとつのテーマで統一し、単なる「展示」というよりは「展覧会」として楽しんでいただけるよう工夫したのです。常設展のチラシも新たに制作、毎回1万枚を館内や県内の施設・店舗等で配布しています。展示室入口にはバナーを掲示し、企画展を目当てに来られた入場者の目にも留まるようにしました。このことで、企画展示室と常設展示室で2つの展覧会が同時に開催されているイメージが与えられます。この年には「三芳悌吉の世界」「安井賞候補の作家たち」「楽しいアート・アートを楽しむ」「自然主義の系譜」「画家たちの青春」という5つのテーマで展示を行ないました。

#### ●いつでも逢える名品

一方、来館者には、いつ美術館に来ても逢いたい、という作品があるはずです。いわば美術館の〈顔〉となっている作品で、クロード・モネや自然主義の風景画、大光コレクションの日本洋画などがそれにあたるでしょう。これらは常設展示室内に名品コーナーを設けて、常にご覧いただけるようにしています。

#### ●キャプションを見やすく

もうひとつの常設展の変化は「キャプション」です。作品によっては従来の2倍の大きさ(A5サイズ)のキャプションを採用することにしました。また主要な作品には解説文をつけ、展覧会のテーマの中で作品がどのような位置づけにあるのかが明確になるよう工夫しています。

常設展は、貴重な美術コレクションを広く県民の皆さんに鑑賞していただく重要な役割を担っています。そのためにも、より楽しく、よりわかりやすい展示に心がけなければなりません。それが学芸員の腕の見せ所であると思っています。

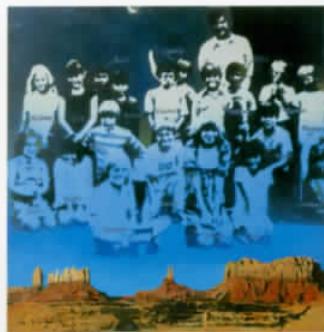
## 平成20年度 これからの常設展

### 子どもの世界～遊びにおいてよ、美術館へ～

7月10日(木)～10月19日(日)

日本画・洋画・版画・彫刻・写真など約100点により、子どもを題材・

モチーフにした作品、子どもの目線で見て「驚き、不思議さや発見」のある作品を紹介します。気軽に作品に親しみ、お楽しみください。体験コーナー「こどもワークスペース」を特設し、さまざまな造形的体験活動ができるようにしました。



こども  
アートミュージアム  
(作品展・ワークショップ)  
8月9日(土)～8月13日(水)  
2F・ギャラリー

佐藤明《ボブの教え子》1978年

### 彩発見！新潟の日本画 10月25日(土)～1月15日(木)

新潟出身の日本画家といえば、まず小林古径、土田麦僊、横山操の名が挙がります。この他にも初期文展・帝展で活躍した尾竹三兄弟、新興大和絵の岩田正巳、京都画壇の三輪晃勢、新潟の風土をテーマにした小島丹漾、藤田熊雄など、枚挙に暇がありません。その多彩な魅力を、所蔵品約80点によって再発見してみてはいかがですか。



三輪晃勢《海女》1937年

### にいがたの風景 1月24日(土)～3月31日(火)

県内各地の風景を取り上げた日本画・洋画・水彩・写真など様々なジャンルの所蔵品を、「野山と人々の暮らし」「水のある風景」「雪の譜」という3つのテーマで、取材地等についての解説や写真とともに展示します。作品を通して、〈新潟めぐり〉をしてみませんか。



川端龍子《夕暮(越後出雲峰展望)》  
1953年

## 利用案内(10月~3月)

## ■開館時間／午前9時~午後5時

(~12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)

※観覧券の販売は閉館30分前まで

## ●レストラン／午前10時~午後5時

(~12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)

※ラストオーダー

[食事]午後4時(~12月12日の毎週金曜日は午後5時50分まで)

[飲物]午後4時30分(~12月12日の毎週金曜日は午後6時10分まで)

## ●ミュージアムショップ／午前9時~午後5時

(~12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)

## ■休館日／月曜日(月曜特別開館日あり)

※ただし月曜が祝日の場合は開館します。

10/6・13、11/3・24、12/1・8、1/5・12・26、2/2・9・23の月曜は開館します。

※年末・年始の12/28(日)~1/3(土)、展示替・保守点検等の10/21(火)~24(金)、1/13(火)、1/16(金)~23(金)は展示替のため休館します。

## ■観覧料金

●企画展 企画展によって観覧料が異なります。

小学・中学・中等教育【前期】／無料

なお、企画展の観覧料で、展示室1・2・3もご覧になれます。

## ●展示室1・2・3

・一般／420円(340円)

・中等教育【後期】・高校・高等専門・大学／200円(160円)

※学生証を提示してください。

・小学・中学・中等教育【前期】／無料

※( )内は20名以上の団体料金です。

※障害者手帳をお持ちの方は無料になります(受付にて手帳をご提示ください)。

## ミュージアムショップKINBIより おすすめ商品のご案内



長岡造形大学教授・福田毅さんの  
絵本とポストカード(¥200)が  
入荷しました♪

福田教授独自の感性で描かれた  
個性的な動物たちがとっても  
CUTE♡

■ミュージアムショップ KINBI TEL0258-28-2200

## レストラン広告塔より 人気メニューのご案内



絵画の余韻に浸りながらの  
食事、ティープレイクにバラエ  
ティー豊かなメニューでお待ちし  
ております。今、開催中のマティ  
スヒルオ一展にちなんで、マティ  
スが魅せられ、色彩を開眼したと  
言われる歴史とアートが溢れた街  
「南仏」、当店風にアレンジして  
ご提供しております。

■ レストラン 広告塔 TEL0258-29-5001

## イベント情報(10月~3月)

## ■映画鑑賞会(無料／講堂にて／①午前10時～②午後2時～)

1/10(土) チャップリン初期傑作選「成功争い」他

1/31(土) 特集・新潟の伝統工芸

2/7(土) 能と狂言シリーズ①

2/14(土) 能と狂言シリーズ②

2/21(土) 能と狂言シリーズ③

3/7(土) 浮世絵入門

3/14(土) 映像の世纪「JAPAN 世界が見た明治・大正・昭和」

## ■共催展

1/4(日)~1/15(木) 新潟県ジュニア美術展覧会「長岡展」

## ■美術鑑賞講座(聴講無料／講堂／午後2時～)

10/11(土) 「砂浜を描いた洋画家 国領經郎と柏崎」  
(学芸課長代理 池上秀敏)11/15(土) 「日本画家 岩田正巳と新興大和絵の画家たち」  
(美術学芸員 長嶋圭哉)3/21(土) 「ジャボニスムと浮世絵版画」  
(主任学芸員 立川厚生)

## ■ワークショップ(参加無料／エントランス集合／午後2時～)

●「びじゅつ☆体験隊」

10/26(日) 水墨画に挑戦

11/23(日) 日本画の印章、てん刻に挑戦

12/14(日) みんなで飾る美術館

2/1(日) 能のうごきに挑戦

3/8(日) 浮世絵版画の色摺に挑戦

## 万代島美術館情報

## ■ボーラ美術館コレクション展

(8月 9日~10月 5日)

## ■佐藤哲三の時代

(10月11日~12月14日)

## ■現代の美術表現「素材と技法」(所蔵品展)

(12月23日~ 1月29日)

## ■金GOLD—黄金の国ジバングと佐渡金銀山展

(2月21日~ 4月19日)

The Niigata Bandaijima Art Museum

新潟県立万代島美術館

〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1(朱鷺メッセ内 万代島ビル5F)

TEL025-290-6655 FAX025-249-7577 <http://www.lalanet.gr.jp/banbi/>

## 編集後記

新潟県立近代美術館が長岡市にオープンして15年目を迎え、開館当初から年2回(春夏1回ずつ)発行されているこの『雪椿通信』も31号を数えました。創刊号は開館日の1993年7月15日発行でしたが、今号も15周年記念号として2008年7月15日を発行としました。

この15年の間に日本社会は大きな浮き沈みを経験し、美術館を巡る状況も一変しました。そこで節目を迎える今年、これまでの活動を様々な角度から振り返り、時代の求める美術館の役割を再認識して、これからも利用者の皆さんに愛される美術館であり続けたいと願っています。

新潟県立近代美術館だより 雪椿通信 第31号

編集・発行 THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14

TEL0258-28-4111㈹ FAX0258-28-4115

<http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/> e-mail [kinbi@coral.ocn.ne.jp](mailto:kinbi@coral.ocn.ne.jp)

制作・印刷 株式会社中央印刷

〒940-0041 長岡市学校町1-9-21 TEL0258-35-3500

発行日 2008年7月15日